

# 平成 23 年度 第 1 回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成 23 年 5 月 26 日（木）14:00～15:30
場所：第 1 委員会室
出席者 <委員>：鳥越良光、後山富士水、藤本貴子、松本美幸、影森寿彦、多田憲一郎、小山京子、小西治之、西川秀香（欠席：菅田茂、村岡政明） <津山市>：宮地市長、大下副市長、田口特別理事、豊岡水道事業管理者、部長級職員、事務局
1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委員委嘱 市長、委嘱状交付 4. 役員選出 会長：鳥越委員、副会長：後山委員 5. 会長あいさつ 6. 協議事項 (1) 事業仕分け（第 2 回実施の方針）について 事務局：第 1 回事業仕分けの総括的説明及び第 2 回事業仕分けの実施方針・要領について説明 会長：何かご意見・ご質問はありませんか。 委員：論評者という新たな役割ができていますが、これはコーディネーターとは違う役割で各事業ごとのまとめをするのか。 事務局：コーディネーターは進行に専念していただき、論評者には判定結果を踏まえた上でコメントをいただく。そうすることで、より論点の整理ができるものと考えている。 委員：プロジェクターを使用して、プレゼンをわかりやすくするのは良いが、それ以上に質問に対しての受け答えが問題ではないか。その部分での意識改革が必要だと感じる。 市長：委員の言われることは私もよく理解している。 会長：職員の皆さんには戦いの意識ではなく、融和をさがす視点に立っていただきたい。 委員：前回の仕分け結果は「要改善」がほとんどで、改善の方向性がわかりにくい点があった。また、今回は職員からも事業募集を行うとのことだが、これは大変良いことだ。ぜひ、下からの意見を尊重していただきたい。 会長：判定については多数決であるが、多数が半分に満たない場合、再判定を行うとか、もう少し考えてみてはどうか。 事務局：判定方法については再度考えて専門委員会で示したい。 委員：アンケート結果で「一方に偏り過ぎ、コーディネーターの役割の見直しが必要」の意見があるが、どういうことだろうか。 事務局：特に具体的に書かれてないが、事業によっては一つの論点で審議が進んだため、その点でコーディネーターに幅広い意見が出るようにバランスをとっていただきたいとの意見だと考えている。 委員：市民評価委員の選定ですが、年齢層とか男女比とかバランスよくされているのか。 事務局：1 回目も同様の方法で選定を行い、ほぼ狙いとおりになったので、この方法で大丈夫ではないかと思っている。 会長：行革の立場から「財源の有効活用」「効果」「効率化」といった視点は入らないのか。

事務局：事業仕分けは行革の手法としての位置付けであり、言われたことは行革本来の前提となるため、ここではあえて触れていない。

会長：事業仕分けと行革とが関連するように、職員の意識改革をしていただきたい。

(2) 実行計画に係る平成22年度実施報告について

事務局：実行計画の平成22年度実施結果について説明

総務部長：定員適正化計画について補足説明したい。津山市では合併後10年間で200名の職員を削減する計画としており、今後3年間職員を採用しなければ達成できる数字である。しかしながら、人事管理上いびつな年齢構成となるため、目標は維持しながら平準化を検討中で、そうなれば効果額も変更になる可能性がある。

会長：趣旨はわかります。なだらかに期間を少し延長するということですね。

市長：3名の新しい委員については初めてなので、また事務局から説明させていただきたいと思います。

会長：その点は事務局で個別対応お願いします。それから最終的に平成24年度目標値を事務局として達成可能と考えていますか。

事務局：おおむね達成できるのではないかと考えている。

会長：目標の達成が目標ではなく、目標を上回ることが目標だという認識でお願いしたい。

委員：定員適正化計画についてですが、長い目で見れば良いと思う。それは民間でも同じだ。

委員：人員削減に伴い、業務の精査もしていく必要があると思う。

委員：業務の見直しは、1つの部署だけでは出来ないので、横の連携を大事にしてほしい。

委員：効果額の積算根拠や数字の意味についての記入が欲しい。また、ビジュアル的にわかりやすい一覧を付けるなど、表現の工夫をお願いしたい。

会長：また専門委員会までに、見直しの内訳、数値、考え方などをまとめて下さい。

(3) その他

事務局：先程の市民評価委員の年齢層について資料がありましたので報告します。延べ80名の内、18～39歳が23名、40～59歳が26名、60歳以上が31名となっております。

7. 副会長あいさつ

8. 閉会